

十島菅原神社(球磨郡相良村)

前方に見えるのが十島菅原神社

 [video](#)



アップで見たところ/左手が拝殿/右奥は本殿の覆屋/拝殿から右手前に突き出している部分は饌室/本殿と拝殿の一部が池の中の島の上に建てられているという



鳥居の先が拝殿



「菅原神社」と記された神額



正面が拝殿/右手に説明板が立っている

 [video](#)



鎌倉時代の弘安年間(1278年～88年)に創建されたと伝えられ、室町時代以降は、人吉球磨一帯を治めていた相良氏によって崇められてきたという/境内の池には十の島があり、これが「十島」の由来と言われ、この一帯の地域名にもなっているようだ

国 指定・重要文化財 **十島菅原神社 二棟**

本殿・拝殿・附宮殿 一基

所在地 球磨郡相良村柳瀬二二四〇

指定年月日 平成六年七月十二日

十島菅原神社は、球磨川とその支流川辺川が合流する場所に近い平野部に位置。菅原道真を祭神とし、創建は弘安年中(一二七八)～(一二八八)と伝えられています。

境内には池があり、その中に十の島が点在しており、それが地名の由来ともなりました。神社は南面し、最も大きな島に本殿、その前面に拝殿等が配置されています。

本殿は、棟木の墨書銘から天正十七年(一五八九)に藤原頼房(相良第一〇代長毎)を施主として建てられたことが分かります。梁間(奥行き)一間の三間社流造で、内部には切妻造の宮殿を安置しています。宮殿の底板には墨書銘があり、本殿と同時に建築されたことが知られます。

拝殿は、江戸時代中期の建造と推測されています。桁行七間、梁間三間の入母屋造で、東側正面寄りに鍵屋状に饌室がみられます。

十島菅原神社本殿は、保存状態も良好であり、細部意匠や拝殿の奥行きが長いことなどに地域的特色が見られ、学術的にも貴重なものとなっています。



拝殿/重要文化財/茅葺の寄棟造で妻入、向拝一間が付く/右手に接続している部分は饌室/拝殿と饌室がL字形に配置されていて、人吉球磨地方に見られる
独特な神社建築とされる/拝殿は棟札により江戸時代中期の宝暦13年(1763年)建造





奥行きの長い拝殿/左奥は本殿の覆屋

[\[動\] video](#)



これも境内の池にある十の島の一つか…



本殿の覆屋/その下に見えるのが本殿/本殿は、棟木に書かれた墨書銘から、天正17年(1589年)に相良家第20代長毎(ながつね))により建てられたことが分かっているという/本殿は板葺の三間社流造/重要文化財/附の宮殿1基は桁行一間、梁間一間、板葺、切妻造/池の中の最も大きな島に立っている



彩色された蟇股が見える



本殿から拝殿方向を見たところ



本殿の後ろ側を見たところ/池の中に建っている感じが見て取れる

[\[▶\] video](#)

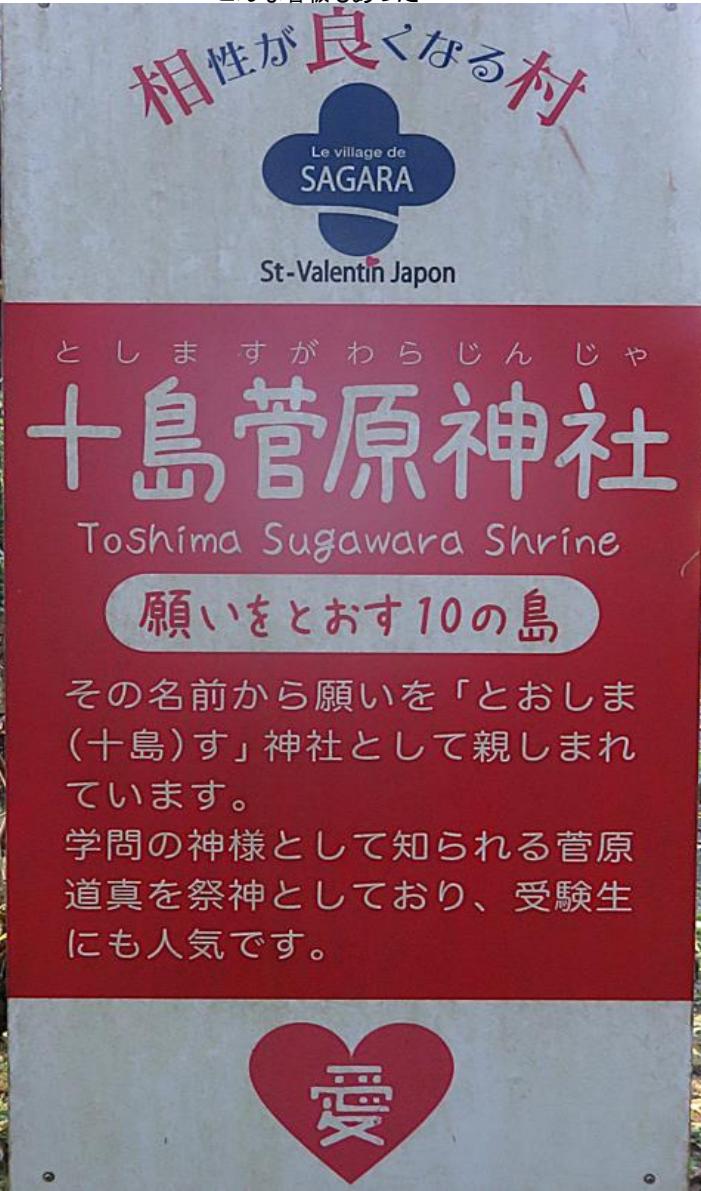


本殿の正面を見上げたところ



拝殿と饌室方向を見たところ





菅原神社の象徴



付近には「正一位稻荷大明神」も鎮座していた



